

櫻守の会

2025年2月号

2025年2月1日(通巻309号)
発行：櫻守の会代表 近藤 茂
〒665-0485 宝塚市栄町3-4-10-505
会員数 96名(1月25日現在)
HP：<https://www.sakuramori.net/>

私と自然そして櫻守の会との関わり

岡 敏明

私は、兵庫県加西郡富田村(現加西市)の農家の長男として生まれ、山や池や小川や稲刈り後の田んぼを遊び場として育ちました。もっともその頃は特に『自然』を意識することはありませんでした。高校卒業以降は現在に至るまでほぼ都会暮らしです。運動音痴の私でしたが体を動かすことは好きで30代半ばから50才まではジョギングをしており(足腰が少しは鍛えられたと思います)、40代から登山を始めましたが、当初はたまには美しい景色に感動することはあっても登ること以外にあまり目が向きませんでした。転勤を機に50才で労山に所属し、そこで自然保護とかかわりを持ち『自然』について意識し勉強するようになりました。当会には労山で知り合った櫻守の会の先輩に紹介してもらい2007年に60才で入会しましたが、ちょうどそのころ労山の役員(自然保護担当)をすることになり、積極的に櫻守の会の活動に参加するようになったのは役員を辞任した2014年ごろからだと思います。

入会後は、通常の会の活動以外に、植物に興味を持って名前を覚えたり、我が家の庭で実生・挿し木・接ぎ木で樹木を育てることにチャレンジしました。もっとも接ぎ木だけはいまだに成功体験がありません。また会で作業をする際は、これまでは仕事のえり好みはせずなるべく人数の足りない班に入って作業をしてきましたが、現在は体力の衰えに加え昨年の7月に指の手術をした影響もあって仕事の選別をしています。年々やれる仕事も減ってくるでしょうが、体を使うことでの健康・仲間と語り合える社交・少しでも美しい日本の山を守るという社会貢献、なによりこれらすべてを含めての楽しさや達成感があるため、自分なりにやりたいこと・やれることを考え、できるだけ長く会の活動を続けるつもりです。

ところで櫻守の会も会員の減少・高齢化に遭遇しています。会員の新規加入を増やす試みは必要であり続けるべきですが、今後は会としても仕事の見直し(作業の範囲、作業の内容・レベル、市や県との分担など)を考えていただきたいと思います。その結果、高齢者が1年でも長く参加してもらえるようになればと思います。



ヤマザクラ・アリドオン・モッコクの実生



コバノミツバツツジ・ミツマタの挿し木

***** 目次 *****

- P1 序文：私と自然そして櫻守の会との関わり
- P2 2025年1月度活動実績表
- P2~4 活動報告：桜の園、青葉台、武庫山の森、新人技能研修会
ゆずり葉の森、山手台は、締切りの都合で次回掲載としました
- P4~5 お知らせ・案内：運営委員会報告、環境パネル展のご案内
- P5~6 櫻守ひろば：「北摂里山大学」を受講して⑦、活動地の山の幸
- P6 活動予定表

＜ 2025年1月度 活動実績表 ＞

| 月日 | 活動地・参加者 ()内は会員外 | 天候 | 作業内容 | 人数 |
|---------------|---------------------|----------------|---|-----|
| 12月24日 (火) | 青葉台 17名 | 晴れ 時々 曇り | (北逆瀬台口～行者山登山路合流点) 枯れ松伐採、多数株立ち常緑樹の株伐り | 6 |
| | | | (陽光広場、小林南大堰堤下平、民家側斜面) 草刈り、枯れ木の伐採、常緑樹間伐等 | 6 |
| | | | (青葉台進入路上側斜面) 繁茂常緑樹剪定、常緑樹伐採、灌木、下草等の刈り取り | 5 |
| 12月25日 (水) | ふらざこむ1 6名 | 曇り | 会報印刷/運営委員会 | 6 |
| 12月26日 (木) | 桜の園(亦楽山荘) 21名 | 曇り 後 晴れ | (桜坂) 常緑樹の間伐、ヤマザクラ伐採木移動他 | 8 |
| | | | (赤松展望所・赤松植樹地) 枯松伐採、ススキ、笹などの下草刈り | 8 |
| | | | (隔水亭・城ヶ丘・親水広場) シロバナウンゼンツツジ観察、清掃他 | 5 |
| 1月5日 (日) | 武庫山の森 25名 | 晴れ | (武庫山ルート)見通し改善のための常緑樹処理 | 10 |
| | | | (入口広場)トウネズミモチの間伐 | 8 |
| | | | (南谷堰堤付近)モミジの移植 | 7 |
| 1月10日 (金) | 桜の園(亦楽山荘) 17名 | 晴れ | (桜坂) 常緑樹間伐 | 6 |
| | | | (赤松植樹地・つつじが丘展望所)ススキ、笹、常緑灌木伐採 | 6 |
| | | | (大峰道)階段補修・追加 | 5 |
| 1月15日 (水) | 桜の園(亦楽山荘) 13名 | 曇り | (滝見の道・桜坂) 枯コナラ倒木処理・常緑樹間伐 | 5 |
| | | | (遠見の道) 枯松伐採 | 5 |
| | | | (大峰道)階段追加 | 3 |
| 1月18日 (土) | 武庫山の森 13名+ 9名別掲 | 晴れ | (武庫山ルート)見通し改善のための常緑樹処理 | 4 |
| | | | (東側道沿い)トウネズミモチの間伐 | 4 |
| | | | (塩谷ルート)コバノミツバツツジ回廊の日当たり改善 | 5 |
| | | | 新人技能研修会 (別掲) | — |
| 1月18日 (土) | 武庫山の森 9名 | 晴れ | 新人技能研修会 (受講生7名、講師2名) | 9 |
| 延べ参加人数 | | | | 121 |

＜ 活動報告 ＞

桜の園 (亦楽山荘)

12/26(木) 暖かい活動日、隔水亭で山の神様へ安全感謝をささげた後、継続して行っている桜坂の常緑樹間伐作業をメインに、一部残っていたヤマザクラ伐採木の移動と、園路のステップの補修を行ないました。赤松展望所・赤松植樹地の枯松伐採とススキ・笹などの下草刈り、隔水亭・城ヶ丘周辺の清掃とシロバナウンゼンツツジ自生地の観察を行いました。親水広場付近の階段や園路の清掃、刈払機全機種の日当たり改善もを行い、新年を迎える準備が出来ました。終礼後の直会で皆の健康と元気の活動参加を誓いました。



山の神様に一年間の安全を感謝



赤松展望所 枯松伐採



城ヶ丘の清掃

1/10(金) 前日に降った雪が各所に残る寒い一日でした。隔水亭で作業の安全を祈願した後、継続実施している桜坂のアオキ、アラカシなどの常緑樹の間伐を行いました。また赤松植樹地の笹を中心とした下草と中小の常緑灌木、つつじが丘展望所のススキの刈取りを行い、展望を改善しました。しばらく手を入れてい

なかった大峰山の道（東屋～林間広場～四辻）の階段補修と追加を行いました。作業終了後、直会をしましたが、今日ばかりは熱燗が恋しかったです。



城ヶ丘の雪景色



桜坂 東屋下のアオキ間伐



つつじが丘展望所のスキ伐採

1/15 (水) 明け方の雨の影響もあり、少し寂しい参加者でした。滝見の道（紅葉のビューポイント）急斜面上部の大コナラ倒木と反対斜面の岩を掴んだコナラ倒木を処理し、東屋から少し下った桜坂園路際のアラカシ、ヤブツバキ、アオキなどの常緑樹間伐を行いました。以前から懸案であった遠見の道（赤松植樹地手前平坦部）の大径・背高の大枯れ松2本をチルホールを用い牽引伐採しました。大峰山道四辻手前の段差の大きいところに杉板で階段5段を追加しました。（瀧本 記）



紅葉のビューポイント コナラ倒木処理



遠見の道 大枯れ松の伐採



大峰道四辻下 階段追加

青葉台

12/24 (火) 12月下旬も、穏やかに晴れ作業に集中すると薄っすら汗ばむ陽気でした。本日は3班で作業しました。1班が活動地進入路南西側斜面で繁茂する常緑樹の枝打ちと伐採並びに灌木や下草の刈り取り等を、また1班は陽光広場及び民家側斜面で草刈り、常緑樹等の伐採、間伐等を、更に1班が北逆瀬台口～行者山登山路合流点間の中～大径枯れ松並びに、6本株立ち常緑樹の4本伐採等を行い見晴らしを改善しました。最後に山の神様に今年1年の安全作業の御礼を行いました。（加賀野 記）



6本株立ち常緑樹の株4本を伐採



小林南大堰堤下平で草刈



山の神様に安全御礼

武庫山の森

1/5 (日) 櫻守の会として本年の作業初めは穏やかな晴れのなかで作業ができました。作業前にはFM宝塚の生放送電話取材を受け全員で挨拶の声を放送に届け、山の神様に安全祈願をしました。武庫山ルートの見通し改善作業を継続して簡易堰堤までは終わることができました。トウネズミモチの間伐作業も継続しており、入口広場周辺を間伐しました。思った以上に多くの木があり1種類の木を切っただけですが、随分スッキリしました。南谷堰堤付近へのモミジの移植をしました。入口広場から育苗地へ上がる階段付近の

モミジと現地のモミジ計 9 本をモミジの少ない場所へ移植をしております。作業後は神様にお供えしたお神酒のお下がりをお供えいただきました。



山の神様に安全祈願



トウネズミモチの伐採



モミジの掘り出し

1/18 (土) 風もなく晴れたなかで動く暑さを感じる一日でした。武庫山ルートの見通し改善は簡易堰堤から南ピークまで終わりました。トウネズミモチの間伐は東側道沿いで実施しました。この2つの作業は次回以降も続きます。塩谷ルートのコバノミツバツツジ回廊の日当たり改善をしました。一本梯子を利用したコナラの枝切り、多くの常緑樹や一部の落葉樹も処理をしました。作業とは別に新人技能研修会を実施し7名の参加者に安全作業のための座学と基本作業の実習を受けていただきました。この研修を各地の作業で活かしてください。(横山 記)



武庫山ルートの見通し改善



コナラの枝切り



新人技能研修会の座学

2024 年度の新人技能研修会

1/18 (土) 2022 年 10 月以降入会の会員を対象とした、新人技能研修会を 2 年ぶりに武庫山の森で開催しました。安全に確実に伐木作業を行うことをテーマに、座学ではテキストを使い、事故や怪我の事例を加えて説明しました。実技では、伐倒方向の見極め、幹へのロープのかけ方や結び方、大鋸を使った受け口・追い口の作り方、チルホルの使い方などの基本作業を再確認しました。「思うような、切口にならない」、「知らないこともあり、勉強になった」との感想がありました。

この研修会を機会に、更に安全に配慮した作業が実行できることを期待しています。

運営委員会



伐根の状態を確認

< お知らせ・案内 >

運営委員会報告 (2024 年 12 月度)

代表 近藤 茂

2024 年 12 月 25 日 (水) 9:30~11:00 ぷらごこむ1

- 2025 年度活動カレンダー・・・承認し決定した。PDF ファイルをメール会員に送信すると共に、ホームページにも掲載した。また 2 月下旬に全会員に印刷物を郵送する。
- 公開講座の準備状況の確認
 - ・広報「たからづか」1 月号に案内記事を掲載する様に依頼していたが、掲載希望が多くて当会の記事が不掲載になったことが判明した。市の WEB 版に掲載されているが、検索が難しい。
 - ・その他の準備は順調に進んでいる。

3. 「櫻守ひろば」の新企画：「活動地のグルメ山の幸」
 - ・会報 2025 年 1 月号に原稿の募集記事を掲載した。会員皆さんからの投稿を期待する。
 - ・山菜類は季節感が重要。山の幸が採れる直前の月の会報に記事を掲載する様に、掲載のタイミングを考慮する。
4. 救急セットの見直し
 - ・救急に必要であるもののみを備え、救急性の少ないものは入れないことを確認した。
 - ・何が必要であるのか人により考え方が異なるので、皆さんの意見を聞いて決定することにした。
5. 葛（クズ）の薬剤処理・・・山手台の斜面にはクズがはびこっており、これまでは根を掘り起こして除去していたが大変な労力を必要とした。あるイベントで樹木医の方より、「クズ処理剤：ケーペンエースが有効」との助言をいただいたので、試験的に使用を開始した。この薬剤はクズ枯らし用に開発されたもので、蔓性でない植物には影響を与えないと言われている。

環境パネル展のご案内

運営委員会

環境都市宝塚推進市民会議と宝塚市が共催の環境パネル展が下記の要領で開催されます。当会も出展しますので、多くの皆さんのご来場をお待ちしています。

期間：2月12日（水）正午～2月19日（水）

場所：宝塚市立東公民館ロビー

＜ 櫻守ひろば ＞

「北摂里山大学」を受講して ⑦ （全10回）

清水 厚真

第5、6回講座 有馬富士公園（三田市有馬富士自然学習センター）

里山林における植生調査、植生調査に基づく間伐実習・・・前月号からのつづき

第2日目 目標林の設定と植生管理の実習

2023年10月21日開催

本カリキュラムの特徴は、放置林の再生において、野外における植生調査と植生管理を一体で学ぶことが出来るところにあります。また、いずれの実習も全員が参画しているところが、森林ボランティア活動で大事な、意思統一の促進とチームワークの醸成につながっていると言えます。

具体的な技術は、問題となる樹種を刈取る（種別刈取り法）ことであり、誤伐を防ぎ、植物をよく知ることが出来ます。

1) 目標林の設定と植生管理の内容

- ・高層には、防災（減災）、環境、文化機能を十分発揮する、コナラ、アベマキ、アカシデ、ヤマサクラ等の落葉高木が優占し、下層にはコバノミツバツツジやマンサクなどの落葉低木が繁茂する、多様な植物が自生する「明るい樹林＝多様性夏緑高木林」を目標としています。
- ・林内を暗くし、草本類や夏緑低木などの生育を阻害する、アラカシ、ソヨゴ、ネズミモチ、ヒサカキなどの照葉樹、ネザサなどのササ類、フジ、クズなどのつる植物を刈伐します。櫻守の会で2023年に作成した「樹木ハンドブック」に記載の、伐採して良い17種を思い出します。

2) 植生管理の実習

- ・作業準備：剪定鋏、鋸、保護具、熊手、木槌
- ・安全管理：除伐時や剪定鋏などの安全確保について
- ・伐採した葉枝の集積場を作る。葉の腐敗促進と景観保持。
- ・種別刈取り方法、本数の記録方法などの説明。アラカシ、ソヨゴの順にT2 亜高木層から順に低木層へ伐採を進める。最後に、ネザサなどの草本層を刈取る。
- ・伐採後の幹は1m程度に玉切り、葉枝は細断し、細かい枝葉は下層に、枝を中層に、太い幹は上に積み上げ、集積場を小さくし、葉の腐食の促進を図る。



集積場 葉枝は下へ幹は上へ

3) 当日所属した班の植生管理（伐採）結果

主な樹種のみ示した ⇒ 右表で示す

> 今回の講座で感じたことは

- ・2017年から実施している植生管理実習だが、継続的な観察

| 樹種 | 被度% | 刈取り本数 |
|------|------|-------|
| アラカシ | 0.01 | 4 |
| イヌツゲ | 0.1 | 36 |
| ソヨゴ | 36.3 | 104 |
| ヒサカキ | 14.3 | 106 |
| ネザサ | 1 | 470 |

が十分でないようです。我が櫻守の会の活動も同じで、伐採後の経過観察が十分とは言えません。何かの仕組みが必要と思います。

- ・普段の活動での常緑樹の伐採など、新人研修や先輩等の技術継承で実施しているが、次の世代への継承を考えると、技術的背景の理解や作業方法の納得感など、もう一歩踏み込んだ理解と周知が重要と思われる。

2. 有馬富士公園を守っている皆さん

有馬富士公園「緑の環境クラブ」の皆さんの全面的なバックアップがありました。

- ・普段の活動は、パンフレットによれば、広大な有馬富士公園の登山道の整備や、環境体験学習の支援活動とあります。
- ・調査や実施で使う、各種の作業道具類の準備、現地実習時における、伐採作業時のサポート。
- ・今回のカリキュラムでは、演習林（放置林）での丁寧な整備活動に触れることが出来ました。一例として、道具類の準備や使い方、伐採時の安全確認、伐採後の葉枝の集積場の設営などで、いずれも推奨すべき行動が習慣化されていると感じました。我が櫻守の会も、見習うべき行動様式と思います。

～以下・次号～
瀧本 浩一

活動地の山の幸 フキノトウ（ばんけ）味噌

早春の山菜フキノトウ（ばんけ）、子供の頃は少し湿り気のある山道や田んぼの畔、沢沿いの地面でよく見かけたのに、宅地化や休耕田の増加のためか？年々見つけるのも難しくなってきた。フキノトウとフキが同じ植物であることをご存知ない方もいらっしゃる。「武庫山の森にあるよ！」と年末に教えてもらった。春になったら探してください。まだ苞が開かないうちに手でひねりもぎ採る。根っこは採らない。独特のほろ苦い味わいと香りで、天ぷらにしても良いが、フキノトウ（ばんけ）味噌もお薦め。細かく刻んで、少々塩を入れたお湯で2～3分茹で、冷水にとってアクを抜く。水気を取ってから味噌、植物性の油（サラダ油）、みりん、砂糖と合わせ弱火で炒めれば出来上がり。美味しいごはんのお供です。根や花粉には有毒成分（肝毒性）があるそう。水に溶けやすいので、①アク抜きをする②一度にたくさんは食べない。和食文化に親しんだ日本人の知恵です。



< 活動予定表 >

月別行事予定表

| 2月 | | 場所等 | 3月 | | 場所等 |
|--------|---|------------|--------|---|------------|
| 2月 1日 | 土 | 公開講座 | 3月 2日 | 日 | 武庫山の森 |
| 2月 2日 | 日 | 武庫山の森 | 3月 5日 | 水 | 桜の園(亦楽山荘) |
| 2月 5日 | 水 | 桜の園(亦楽山荘) | 3月 10日 | 月 | ゆずり葉の森 |
| 2月 10日 | 月 | ゆずり葉の森 | 3月 13日 | 木 | 桜の園(亦楽山荘) |
| 2月 13日 | 木 | 桜の園(亦楽山荘) | 3月 15日 | 土 | 武庫山の森 |
| 2月 15日 | 土 | 武庫山の森 | 3月 18日 | 火 | 山手台 |
| 2月 18日 | 火 | 山手台 | 3月 23日 | 日 | 桜の園(亦楽山荘) |
| 2月 22日 | 土 | 会報印刷・運営委員会 | 3月 26日 | 水 | 青葉台 |
| 2月 23日 | 日 | 桜の園(亦楽山荘) | 3月 29日 | 土 | 会報印刷・運営委員会 |
| 2月 26日 | 水 | 青葉台 | | | |

集合時間：桜の園（亦楽山荘） 親水広場9時50分、武庫山の森9時50分、他の3活動地は9時30分。
天 候：当日朝 6時55分NHK TV 天気予報で、兵庫県南部の午前・午後いずれかでも降水確率 60%以上の時は中止します。

（編集後記） 阪神・淡路大震災から30年が経ちました。当時は「ボランティア元年」と言われましたが、今では多種多様な分野でボランティア活動が盛んな一方、高齢化と人手不足が課題です。我が櫻守の会は、野外活動主体のボランティア団体ですが、「楽しく・体が続く限り活動したい！」との声を聞きます。時代の変化に合わせて、活動を進化させて行くことも大切と感じています。 (清水)